

大学時代



(H11) 澤田（岸本）裕子

大学生活の4年間の思い出といえば、毎日毎日トレーニングに明け暮れていた記憶しかありません。冬季のシーズンオフでもどこかで暇をみつけては走っていたり、母校の佐野高校に顔を出して練習していたような気がします。そのときの貯金が残っているのか、スピードは遅くなりましたが、現在でもラントレ継続中です。

初の女性部員として、入学当初は部の中にとけ込むことができるのか多少不安がありましたが、優しい(?)先輩達のおかげでほぼ男性に近いくらいの扱いを受けてきたような気がします。あるときはブレンバスターされ、あるときはいきなり首投げやアイアンクローされたりと…。ひどいなあ(涙)と思いつつも半分楽しんでいた自分がありました。

当時はまだまだ女子レスリングはメジャーではなく、近所での試合が無い場合、試合会場は東京以外に京都網野・新潟五日市・福島と遠距離であり、現地に着くまでに疲れてしまう状態でした。でも試合が終わって帰るときは、ちょっとした旅行気分で行っていた気がします。(すみません…)

男性ばかりと練習していた自分にとって、2年生のときに参加した中京女子大での合宿が一番印象に残っています。同大学の部員と全国の高校生女子レスラーとの合同練習。女性ばかりの集団生活。相手にならないくらいの強い選手ばかりで、練習についていくのがやっとだったくらいきつかったことが忘れられません。また、知り合いが誰もいない、ほとんどの選手が年下ということで、弱気になってはいけないと気持ちを奮いたたせていましたが、恥ずかしながらこっそりトイレで泣いていました。しかし、日ごろのラン練習の成果で、朝の1キロ(かな)ダッシュでは現在世界で活躍する選手たちがいるなか、トップになり、中京女子大の栄監督に「岸本さんは走るの早いね～」と言われたのがなかでも印象に残っています。

もうひとつの思い出といえば、初の海外遠征です。2年生のときから始まった全日本女子大学選手権で3位に入賞し(五人中ではありますが)、これがきっかけでアメリカアリゾナ州で開催されたサンキストカップに日本代表として出場できたことです。まさか自分が日本代表だなんて信じられず(今でも信じられません)、負けてなんの結果も出せなかったらどうしようというプレッシャーに押しつぶされそうになりました。同じ日本チームとして、赤石光生監督、吉村祥子選手や三田寺由香選手など当時のトップクラスの選手と一緒に。そして初の海外遠征、初の外国人選手との対戦。相手は刺青の入った見るからに怖そうなアメリカ人選手でした。同じ階級のはずなのにデカく感じて威圧されたようで、さらに舞い上がってしまいました。監督やチームメンバーのアドバイスののおかげで初勝利!うれしくて泣いてしまいました。結果はつ3回戦敗退の7位でしたが、ほんとうに貴重な体験をさせてもらったと思います。

2年生・3年生のときは部員数が少なく、とても辛い時期もありましたが、4年生のときにはまた人数が増え、活気づいて楽しかったと思います。

こうやって、4年間レスリングを続けることができたのも、横山監督・安田コーチ他OBの方々によるご指導のおかげだと思います。そして、研究で忙しい中主将を務めてくれた甲斐君、そしてマネージャーとして私を支えてくれた飯田さん。二人のおかげで自由奔放に部活を楽しむことができました。本当にありがとうございます。

あれから9年経ちましたが、レスリングで学んだチャレンジ精神で、泳げなかった水泳を克服し、私にとって新しいスポーツであるトライアスロンを始めました。同じ競技に打ち込む仲間も増え、大会もいくつか経験するなど楽しい日々を送っています。